

第206回福島県災害対策本部員会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日 時：平成23年8月19日（金）10:00～10:10
- 2 場 所：災害対策本部・自治会館303会議室
- 3 内 容：

（1）環境放射能測定結果（暫定値）の状況について

原子力安全対策課長：別紙資料により説明

平成23年8月19日8時現在、最小値が南会津合同庁舎、下郷町役場、只見町役場、檜枝岐村役場の $0.08\mu\text{Sv/h}$ 、最大値が飯舘村長泥コミュニティセンターの $8.88\mu\text{Sv/h}$ となっており、概ね横ばい又は減少傾向を示している。

（2）「農林水産業に関する相談窓口」の利用状況について

農林水産部長：別紙資料により説明

- ・ 8月18日の相談は35件で、前日より16件増加している。内容としては畜産関係の運転資金に関する問い合わせのほか、モモの検査結果や、県外の方からモモの購入先についての問い合わせもいただいている。また、土壌改良素材としてのゼオライトの効果についての質問や、これまでの県産農産物、水産物に係るモニタリング検査結果を検索できるシステムを県のホームページに開設したが、そのWEBサイトに関する問い合わせもきている。

（3）「原子力損害の賠償等に関する問い合わせ窓口」の利用状況について

原子力損害対策担当理事：別紙資料により説明

- ・ 8月18日の利用は24件であった。
- ・ ここ数日、自主避難についての要望が続いている。
- ・ また、最近では、「圏域内の事業所に部品を外注していたが、事故後取り引きができなくなり減収している」といった、間接損害についての問い合わせが増えている。

（4）「ふくしま 新発売。」キックオフイベントの概要について

農林水産部長：

- ・ 8月17日から18日まで、知事に出席していただき、「がんばろう ふくしま！」の取り組みについての発表及び、東京の太田市場でのPR活動を行った。
- ・ 「ふくしま 新発売。」のこれからの取り組みに関する発表の中では、メッセンジャーの方から、元気の出る応援メッセージをいただき、また、大田市場では、お盆休み後初のせりということで、多くの方にお集まりいただき、本県産のモモを始め、県産品のPRを行った。早速、JA新ふくしまやJA伊達みらいに対して、モモの購入に関する引き合いが来ているとのことで、かなり効果があったと、農協から報告がきている。

- ・ 引き続き、県産の農林水産物の販売促進に向け、量販店等に対するアプローチなど、積極的な取り組みを進めていきたい。

知事

- ・ 「ふくしま 新発売。」ということで、大田市場では本当に快く対応していただいた。
- ・ 昨日、侍従長から電話があり、天皇皇后両陛下からの福島県に対する励ましの言葉をいただいた。これは、農林水産物のみならず、皆さんが本当に良く頑張っているということを含んだ中での陛下からの言葉と思うので、今後とも、しっかり頑張っていたきたい。

※ 8月22日（月）の本部員会議は、午前10時から開催する。

第207回福島県災害対策本部員会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日 時：平成23年8月22日（月）10:00～10:14
- 2 場 所：災害対策本部・自治会館303会議室
- 3 内 容：

（1）環境放射能測定結果（暫定値）の状況について

事務局：別紙資料により説明

平成23年8月22日8時現在、最小値が下郷町役場及び只見町役場の $0.07 \mu\text{Sv/h}$ 、最大値が飯舘村長泥コミュニティセンターの $8.31 \mu\text{Sv/h}$ となっており、概ね横ばい又は減少傾向を示している。

（2）「放射線に関するワンストップ相談窓口」の利用状況について

オフサイトセンター広報班：別紙資料により説明

- ・ 8月9日から放射線に関するワンストップ相談窓口をスタートさせた。
- ・ 8月14日から8月20日までの相談件数は840件。1日平均120件程度となっている。
- ・ 主な内容としては、県産のモモや野菜を食べても安全か、自宅周辺の線量調査や内部被ばく調査の実施希望、除染の早期実施等についての要望、問い合わせが多い状況となっている。

知事

- ・ 問い合わせにはどの様に回答しているか。

オフサイトセンター広報班

- ・ 桃や野菜の件については、暫定基準値を下回っているので食べても問題ない旨回答している。線量や内部被ばく調査等については、県の担当窓口の連絡先を紹介している。

（3）「農林水産業に関する相談窓口」の利用状況について

農林水産部長：別紙資料により説明

- ・ 8月21日の相談4件で、前日より17件減少している。主な内容としては、肉用牛の買い上げ事業について、キノコのモニタリングについて等の問い合わせが来ている。
- ・ また、週末にかけて、県外の方から福島県のモモを購入したいとの問い合わせが数件寄せられた。これは先週17、18日、知事に「ふくしま、新発売。」や大田市場においてのトップセールス等、「がんばろうふくしま」の活動をしていただいたが、その効果が出たものと思われる。

（4）「原子力損害の賠償等に関する問い合わせ窓口」の利用状況について

生活環境部参事：別紙資料により説明

- ・ 8月21日の利用は7件となっている。

- ・ 主な内容としては、緊急時避難準備区域の解除が賠償等に与える影響（賠償の終期、戻った場合の財産の賠償等）についての問い合わせがあった。

(5) 経営・金融・労働の相談状況について

商工労働部長：別紙資料により説明

- ・ 8月15日から19日までの相談件数は22件である。
- ・ 主な内容として、制度資金に関する融資の要件についてであり、その他仮設住宅入居者からの就職相談等の問い合わせが多い状況となっている。

知事

- ・ 求人については仮設住宅にも周知しているとのことであるが、掲示のみの周知ではなかなか不十分な面があるので、できれば市町村担当者が可能であれば求職者へ個別に制度を説明するなど、市町村と連携してさらなる周知に努めて欲しい。

(6) 環境放射能モニタリング詳細調査計画について

生活環境部政策監：別紙資料により説明

- ・ 7月に福島市で実施した自動車走行による環境放射能モニタリング調査において、周辺地域に比べ空間線量率が高いことが推定された南向台地区の661地点でより詳細な調査を実施する。
- ・ 期間は8月24日から25日まで。
- ・ 電気事業連合会構成各社職員、県職員、日本原子力研究開発機構等で構成される調査班を編成し、1班あたり1日20地点を測定する。
- ・ 調査協力の得られる宅地の庭・玄関各1地点においては、高さ50cm及び1mの空間線量を測定する。

知事

- ・ 以前に調査を行った渡利地区の結果は出たのか。また、この調査はどこが主体となって行っているのか。

生活環境部政策監：

- ・ 主に国と県が行い、市にも調査地点の調整等協力を頂きながら進めている。渡利地区調査については、現在行っているところである。

知事

- ・ この調査結果をどのように除染へ繋げていくのか。

生活環境部政策監：

- ・ 調査結果を踏まえ、市で除染マップを作成し、順次除染を進めていくことを想定しているようなので、県としても協力をしていきたい。6月議会で町内会単位で除線に取り組む事業に対して予算については各自治体へ通知しているので、福島市のみならず、各市町村でも、それぞれの団体へ説明をし集約しているところかと思う。

知事

- ・ 日にちを明らかにして行うことが地域からは望まれている。しっかり行ってほしい。

(7) その他

企業局長

- ・ 先週17、18日に緊急時避難準備区域のある5市町村を訪問し、復旧計画の策定について意見交換をしてきた。
- ・ 現在、それぞれの市町村の事務方で検討している状況であり、進捗状況に差はあるが、粛々と準備を進めている状況が確認できた。
- ・ そういった状況を踏まえ、今週24日から25日にかけて県の復旧計画策定チームと市町村で協議を行う場を設けた。そういう中で復旧計画を固めていただき、その後国との協議となるかと思うので、支援体制を今後も強化していきたい。

直轄理事

- ・ 復旧計画の策定に向けて、全庁挙げての市町村支援をお願いしたい。

知事

- ・ 連日ご苦労様です。ここ数日涼しくなっているので、体調には十分留意してご活躍いただきたい。

※ 明日8月23日（火）の本部員会議は、午前10時から開催する。

